学校法人 大阪音楽大学広報誌

Nuss

vol.211
2010 April
発行／学校法人 大阪音楽大学
編集／広報誌編集室
〒561-8555 豊中市庄内幸町1-1-8
TEL／06-6334-2131 FAX／06-6334-2141
URL http://daion.ac.jp
発行日／2010年4月1日

声楽専攻生と校歌を合唱する大学卒業生（3月25日　オペラハウス）

2015年 楽 創立100周年

CONTENTS

5年目迎えた豊中市・本学連携のサウンドスクール事業 ……2・3
第21回学生オペラ「コジ・ファン・トゥッテ」ほか ……10・11

■2009年度大学・短大卒業式……4
■連載「校史点描」＜12＞校舎増築と運動場……5
■オペラハウスの催し……6
■全盲の新入生、富岡美晴さん　短大ピアノ・コースに……7
■ミュージアムコンサート……8
■オペラ物知り講座……9
■留学生の橋本恵史さんが海外デビュー……12
■在外研修を終えて　井前典子さん報告……13
■入試ナビ／はびきの市民大学聴講記⑨……14
■10年度入試関連スケジュール／10年度入試結果……15
■畠山歩美さんの香港異動余話／コンクール……16
■合唱オープン講座に作曲家 木下牧子氏……17
■ショパンの楽譜　コルトー版　八田惇……18
■ミレニアムホール特別講座……19
■短大ジャズ、ミュージカル公演……20

5年目迎えた豊中市・本学連携のサウンドスクール事業

サウンドスクールについて語り合う右から本田耕一教授、淺利敬一郎豊中市長、中村孝義学長

音楽あふれる学校園・まちへ

対談

淺利敬一郎 豊中市長
中村孝義 学長（理事長）
司会 本田耕一教授（市教育委員）

「音楽があふれる学校園づくり」を合言葉に06年度からスタートした豊中市のサウンドスクール事業。子どもたちが本物の音楽と接したり、知ったりすることで豊かな心を育んでもらおうと、市教育委員会と大阪音楽大学が協働で取り組み、10年度で5年目を迎えます。そこで、2月8日、淺利敬一郎市長と中村孝義理事長・学長が学長応接室で対談。近い将来、さらに市民も巻き込んだ「音楽があふれるまちづくり」を推進するための展望や課題などについて語り合ってもらいました。司会は同市教育委員も務める本田耕一教授。

音大通りの仕掛け模索 どこでも出かけて演奏

淺利市長 中村学長

本田教授 サウンドスクール事業は、淺利市長が市教育長の頃からの構想です。06年度は11月スタートでしたが、小・中学校19校で学生、教員らの派遣人数は延べ95人。08年度には幼稚園を含む50校園で延べ166人。初年度と比べると学校、派遣人数とも大幅に増えています。

淺利市長 昨今の行財政環境の厳しさは本市も例外ではありませんが、学校園での取り組み以外にも、市役所第二庁舎や豊中病院でロビーコンサートを開催するなど、音楽を通じて市民の皆さんに潤いを感じていただく文化事業も進めています。

中村学長 音楽は心に余裕を与えることでは重要です。音楽がなくてもセレモニーは出来ますが、音楽で人の心をまとめることができます。文化は人の気持ちに触れ合うものがあります。

淺利市長 豊中の地に音楽大学があり、すばらしい施設と人がおられる。豊中市としても、このことを外に向け発信していくことは大切だと考えています。また、大阪音大前の道路（穂積菰江線）が整備され、きれいになりましたが、もう一つ、音大通りについて何か仕掛けができないか、内部で検討しています。

中村学長 大阪音大のある庄内という庶民的な町に芸術・文化はそぐわないと言われる人がいますが、私はそうは思いません。地域から孤立して音楽をやっているのではなく、サウンドスクール事業を始め、請われれば商店街でもどこでも出かけて、その人たちから大阪音大を誇りに思って頂かないと、ここに存在している意義がないと常々思っています。

淺利市長 サウンドスクール事業で良い出会いが出来、そのことで、子どもたちが音楽を好きになっていく。「音楽は心合わせしないと出来ない」ということがよく分かるのではないでしょうか。

中村学長 大ホールで一流の演奏を聴くのもすばらしいことですが、教室などでは年齢の近い学生が目の前で演奏してくれる。その姿を子どもたちが見ることで、本当に良い出会いが出来るのでは。

淺利市長 確かにホールに行くことはクラシックの醍醐味ですが、学校の音楽室の中で、例えばコントラバスの演奏を目の前で聴かせてもらうと感動します。

中村学長 本学のオペラハウスは日本でも有数の施設です。小さな教室で感動したことを、このホールでまた違った形で聴いていただく。そのことで、世界がどんどん広がっていきます。

淺利市長 音楽の良い面を考えますと、じっくり聴く子どもは物事をじっくり考えられますね。知識を学ぶだけではなく、トータルで人間性を育てられるのが音楽ではないでしょうか。

中村学長　ゆっくりと音楽に耳を傾ける環境でなくなっていますが、子どもたちは演奏を聴く感性を持っているのは確かです。

音楽と図書館充実が特徴

淺利市長　学校図書館の充実とともに、音楽あふれる学校園づくりは、豊中の学校教育の特徴です。

人間が育っていく、豊かな情操を持つ、コミュニケーション能力を高める、というのは音楽だったり、読書だったり。そのことで、社会に出た時に人間としての広がりが出来ます。そういう意味でも、オペラハウスというすばらしい施設を通じて、クラシックに興味・感心を持つ層が増えるのは大変喜ばしいことですね。

中村学長　音楽を聴くにしてもやるにしても、心を通い合わせなければ出来ないことです。合唱や合奏をあまり経験したことのない子どもは、相手の心が読めません。しかし、経験することで、相手の気持ちをおもんばかろうということが生まれてきます。

淺利市長　一緒に演奏する環境を、小さな時から整えていくことが人を育てます。

本田教授　自治体が大学と連携するサウンドスクールのような事業は、今のところ全国的にも豊中市が唯一で、府内の他の自治体からうらやましがられています。ぜひ我々のまちへも来てほしい、との要望もあります。

幾つもの出会いあり成立

中村学長　これは幾つもの出会いがあって成立したことで、いろいろな条件が重なり合わないと出来ません。

淺利市長　学長さんをはじめ、大学関係者の皆様のご理解とご支援、本当にありがたいと思っています。お陰で音楽を市民の共通項として「音楽あふれるまちにしましょう」というアナウンスをしっかりしていけます。

本田教授　オペラハウスで昨年開催された「豊中子ども音楽祭」には、これまでオペラハウスの存在を知らなかったり、足を運んだことがなかったりした人たちでほぼ満員になりました。これも、サウンドスクール事業の推進や音楽あふれるまちづくりに向けた取り組みの成果が表れたのではないでしょうか。

淺利市長　ありがとうございます。出演した豊中の子どもたちにとって、大勢の前で日頃の成果を披露できたことは、大きな励みや自信になったでしょうね。

中村学長　学生たちは聴いていただくことでうまくなっていきます。オペラハウスやミレニアムホールで発表会の形でやっている演奏会に、市民の皆さんにもお越しいただき、叱咤激励してもらえばと思います。

催しのアピール考えたい

本田教授　これからも多くの市民の方々に来ていただけるような催し物を考えていきたいと思います。また、アピールの方法も模索中です。

淺利市長　音楽あふれる学校園づくり・まちづくりの取り組みが10年先も20年先も、日常生活に定着したものとなるよう一歩一歩着実に進めていきたいと思います。

中村学長　持続することが力になります。全国に自慢できるものとなるように、と期待しています。

学校法人大阪音楽大学人事

理事長　中村孝義（重任）▽理事　十川輝明（新任）＝以上4月1日付

大学等役職者（4月1日付）

大学学長、短期大学部学長　中村孝義

【学長任命職】大学副学長　武藤好男▽短大副学長　本山秀毅▽大学院研究科長　北野徹▽大学教育部長　永田孝信▽短大教育部長　駒井肇▽学生部長　谷口真生子▽研究部長　山下豊▽図書館長　米山信▽音楽博物館長　藤田隆▽大学専攻科主事　芹澤佳司▽短大専攻科主事　塩谷信廣▽国際交流室主事　竹田和子▽コンサート・センター主事　油井美加子▽FD統括主事　藤本敦夫

【理事長任命職】自己点検・評価部長　松本昌敏▽入試センター長　田中由也▽エクステンション・センター長　本田耕一▽オペラハウス館長　荒田祐子▽音楽院長　松田昌恵▽音楽幼稚園長　小畑有子

教員人事　新任　大学　教授　久合田緑（ヴァイオリン）▽短大　准教授　晴雅彦（声楽）　助教　藤井快哉（ピアノ）

名誉教授　鹿島正昭

音楽力を社会に届けよう

09年度卒業式

純白の木蓮が春雨を含んでふっくらと揺れる3月25日、大阪音楽大学と大学院、短期大学部の09年度卒業式がザ・カレッジ・オペラハウスで行われました。あでやかな着物に袴姿もりりしく、大学音楽学部262人、音楽専攻科30人、大学院音楽研究科8人、短期大学部音楽科210人、同専攻科20人の卒業生、修了生が式に臨みました。中村孝義学長が各代表に卒業、修了証書、学位記を授与、大学最優秀賞、大学、短大の優秀賞などに選ばれた24人を学長表彰しました。式辞の後、在学生オーケストラが門出を祝い、ブラームスの大学祝典序曲を演奏しました。

中村孝義学長から表彰される短大優秀賞のみなさん（オペラ・ハウス）

中村孝義学長　式辞

卒業とは人生における重要な節目の一つ。人間は節目を意識することで、発展を重ねてきました。今年は阪神淡路大震災から15年の節目の年。あの時被災した方々の心を慰め、勇気を与えた音楽の絶大な力を、この厳しい時代だからこそ、みなさんにも自覚してほしい。そして本学で学び、培ってきた一人ひとりの音楽力、人間力をこれから最大限発揮して社会に届けてください。はなむけに「不可能なことをめざしてアタックしなければ、およそ可能なことの達成もおぼつかない」というマックス・ウェーバーの言葉を贈ります。

09年度 最優秀賞と優秀賞決まる

大阪音楽大学と同短期大学部は09年度の大学「最優秀賞」4人と「優秀賞」9人、短大「優秀賞」11人を選び、中村孝義学長が3月25日の卒業式で表彰しました。「音楽社会活動賞」は大学、短大とも申請者がありませんでした。

大学最優秀者賞は松本栄成さん（作曲）、小林峻さん（声楽）、福田容子さん（ピアノ）、藤田紗織さん（フルート）です。4人は10月27日にオペラハウスで開催のザ・ローレル・コンサートへの出場権を得ました。大学、短大の優秀賞は次の皆さん。

【優秀賞】大学＝臼井直美、高瀬悠、平川文香（以上声楽）▽上原慎太郎、内田恵梨香、佐々木茉莉子（以上ピアノ）▽小橋綾実（クラリネット）▽茶円清正（サクソフォーン）▽山崎清花（ヴァイオリン）▽短大＝鮫田幸作（作曲）▽大山端紀、澤真紀（以上声楽）▽近藤千朱、下浦里佳、林由佳（以上ピアノ）▽岩田智沙（フルート）▽外山舞（サクソフォーン）▽新家華織（ミュージカル・コース）▽牛尾奈津美、浦田友実（以上電子オルガンコース）

藤田紗織さん

福田容子さん

小林峻さん

松本栄成さん

最優秀賞

松本　栄成さん
小林　峻さん
福田　容子さん
藤田　紗織さん

付属幼稚園は99人卒園

付属音楽幼稚園の第43回卒園式が3月19日に園内ホールで行われました。

今年の卒園児は99人。小畑有子園長が一人ひとりに「おめでとう」と声をかけ、卒園証書を手渡しました。

この後、園長が挨拶に立ち「皆さんは幼稚園で、諦めないでがんばる力、次のことを考えて準備する魔法のつえを手に入れました。4月からは小学生です。この魔法の力をどんどん使って、すてきなお兄さん、お姉さんになってください」とエールを送りました。

校史点描〈12〉

創立百周年に向けて

大阪音楽学校は１９２８年（昭和３年）に大阪市東区味原町（現在の天王寺区味原本町）の校舎隣地２７５平方㍍（83坪１合９勺）を買収して本造３階建てを増築し、旧校舎に継ぎ足しました。授業科目などが増え、練習室や教室不足が目立つようになったためです。しかし、運動場がなかったことでドラマが生まれ、数々の問題も起きました。そのことが後に現在地の豊中・庄内の地へ移転する契機となり、本学の飛躍につながりました。

（文中敬称略）

増築したのは校長居住室、練習室、教室など。これで、校舎の室数は旧校舎34室、新校舎36室の計70室となり、一時期でしたが、校長一家もここに移り住みました。永井は「校舎竣成の感」として「回顧すれば過去４カ年の苦心は眞に夢の如し」と記しているように、借金は相変わらずで、利息だけで「月々ピアノ１台を新調し得るほど」でした。

地下には食堂もありました。日の当たらない６畳ぐらいの広さで、きつねうどんにご飯の定食が15銭。

校舎増築と運動場

写真㊤は旧校舎に継ぎ足した3階建ての新校舎（左の部分）㊦は庄内学舎新築の地鎮祭で鍬入れをする永井幸次学長（1954年7月）

広場で野球 先生も応援

借地に住宅 庄内へ

１９３６年（昭和11年）春、本校予科に入学した故野口幸助（同窓会・幸楽会元会長）も「その定食がとてもおいしかったそうであります」と書いています。

その話を裏付けるのは36年に専攻科を卒業し、93歳の今も大阪市阿倍野区で音楽院を経営している近藤ヤエさんです。「うどんとか軽食程度でしたが、当時の学生はそれほど口が肥えていませんでした。ですから、いまだにおいしかったという思いが残っています」

校舎は立派になりましたが、運動場がなかったので、学生は不便だったし、難題も持ち上がりました。野口は当時を回想しています。

「（運動場がないので）若い私共は近所の広場でうどん屋の出前持ちらを相手に、野球の試合をよくしました。ところがそこをレッスンの先生が通りかかり『君レッスンやないか』といわれる。『先生いま肝腎のところです。もう一寸待って下さい』というと、先生も一緒になって応援して下さる。（中略）そういう具合で先生と学生の間が非常に家族的なムードで……」

運動場を巡り本学と関わりが出来たのが水川清一です。永井に請われ50年（昭和25年）に理事長、65年（同40年）に永井の死後、学長に。水川はそのいきさつを複数の出版物に書いているので、その一つを紹介します。

「昭和22年秋か23年の初めの頃の話である。新しい学制が施行せられることになり、大阪音楽学校も新制の音楽高等学校に変革されることになった。ところが、当時の音楽学校には運動場が全くなかった。運動場がなければ高等学校に認定せられない。まさに学校にとっては一大事である」

「その時私は大阪中央放送局長（ＮＨＫ）をしており、且つ高等学校開設についての大阪府の審議委員をしていた。校長の永井幸次先生が訪ねてみえた。そして私はご相談をうけた（中略）。先生と私のそもそものつながりはこの『運動場』がないということから出来たのである」

永井は音楽高等学校設立に当たり、大阪音楽学校の近くにある貯金局内分室の空地に目をつけました。空地を職員が使っているのは日曜日だけ。そこで、平日は学校に貸してもらおうと水川に交渉を頼みました（放送局と貯金局の所管官庁は逓信省＝現総務省）。しかし、その土地は貯金局ではなく、ある銀行の所有でした。借用するのですが、いつの間にか住宅地に。51年（昭和26年）の短期大学設立時には府立高津高校裏の空き地を借用。３年後、短大２部の開学の際にはここも住宅が建ち、やむを得ず真田山公園を時々使わせてもらうような状況で、移転せざるを得ない事態に追い込まれ、白羽の矢が立ったのが庄内でした。

ザ・カレッジ・オペラハウスの催し

2010年度　オペラ公演

第45回オペラ公演　サマー・オペラ
W.A.モーツァルト

「恋人たちの学校」

Così fan tutte コジ・ファン・トゥッテ
（原語ーイタリア語上演　字幕付）

7月2日（金）18時　7月4日（日）14時
全指定席　5月10日発券予定
入場料　一般7000円　シルバー6000円
＊幸楽会・付属音楽院会員はシルバー料金と同額とします。
小・中・高校生3000円
指揮　大勝秀也　**演出**　粟國　淳
制作　田中　勉　**制作統括**　荒田祐子
〈キャスト〉
フィオルディリージ　並河寿美　**ドラベッラ**　北野智子
フェッランド　小餅谷哲男　**グリエルモ**　晴　雅彦
デスピーナ　田邉織恵　**ドン・アルフォンソ**　木村孝夫
通奏低音　チェンバロ:西　聡美　チェロ:上塚憲一
合唱　ザ・カレッジ・オペラハウス合唱団
管弦楽　ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団

第46回オペラ公演　20世紀オペラシリーズ
A.プレヴィン

「欲望という名の電車」

（原語ー英語上演・字幕付）

11月12日（金）18時　11月14日（日）14時
全指定席　発券未定
入場料　一般7000円　シルバー6000円
＊幸楽会・付属音楽院会員はシルバー料金と同額とします。
小・中・高校生3000円
指揮　大勝秀也　**演出**　中村敬一
制作統括　荒田祐子
＜キャスト＞
ブランチ　松田昌恵　**ステラ**　石橋栄実
スタンリー　藤村匡人　**ミッチ**　小餅谷哲男
ユーニス　野間直子　**スティーヴ**　松岡重親
若い集金人　諏訪部匡司　**メキシコ女**　西村　薫
医師　木村孝夫　**看護婦**　植田加奈子
パブロ　池森康祐
管弦楽　ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団

大阪音楽大学カレッジ・オペラ講座2010

〔オペラ物知り講座〕

テーマ　**オペラをかげから支える頭脳たち**
講師　中村敬一

第1回　5月11日（火）　18時30分～20時30分
コレペティートルの仕事「コレペティートル～高崎三千さん」
ゲスト:コレペティートル　高崎三千　演奏:ソプラノ　中西麻貴
第2回　7月6日（火）　18時30分～20時30分
音響の仕事「音響プランナー～小野隆浩さん」
ゲスト:びわ湖ホール音響　小野隆浩
演 奏:テノール　清原邦仁　ピアノ　西尾麻貴
第3回　10月5日（火）　18時30分～20時30分
プロデューサーの仕事「びわ湖ホール前館長～上原恵美さん」
ゲスト:びわ湖ホール前館長　上原恵美
演 奏:バリトン　西田昭広　ピアノ　佐藤明子
第4回　1月18日（火）　18時30分～20時30分
指揮者の仕事「マエストロ～牧村邦彦さん」
ゲスト:指揮者　牧村邦彦
演 奏:ソプラノ　平野雅世　ピアノ　岡本佐紀子
受講料　1,000円　4回一括3,500円

〔一般社会人のためのオペラ講座〕

5月13、20、27日、6月3、17日　毎回木曜日
18時30分～20時30分（6月17日のみ18時～21時）
講師●声楽・言語指導　安藝榮子　福島慶子　補助 友田久美
●演出　中村敬一
●コレペティートル　佐藤明子　矢崎真理
●指揮　加藤完二
受講料20,000円　定員40人

〔高校生のためのオペラ講座〕

第1日　8月20日（金）11時～15時　第2日　8月21日（土）11時～17時
講師●声楽・言語指導　荒田祐子　田中由也　●演出　中村敬一
●コレペティートル　矢崎真理　西尾麻貴　●指揮　加藤完二
受講料10,000円　定員30人

＜申し込み・問い合わせ＞大阪音楽大学エクステンション・センター
☎06ー6334ー2251　FAX06ー6334ー2542

2010年度 ミレニアムピアノコンサート

～ピアノ教員による演奏会～

第1回　5月6日（木）17時　ミレニアムホール
入場無料

丸山耕路

藤井快哉

丸山耕路　F.ショパン:4つのマズルカ　作品33
バラード　第4番　作品52
藤井快哉　L.v.ベートーヴェン:
ピアノ・ソナタ　第23番　ヘ短調　「熱情」　作品57
第2回　6月8日（火）17時　ミレニアムホール
入場無料
北野裕司　星賀規子　油井美加子

大阪音楽セミナー2010

“古今東西音楽考”（その25）

企画　大阪音楽大学音楽学研究室
18時30分～20時30分　さいかくホール（大阪府新別館北館1階）

第1日　6月9日（水）　講師　高　昌帥
第2日　6月11日（金）　講師　晴　雅彦
第3日　6月16日（水）　講師　油井美加子
第4日　6月18日（金）　講師　葛西　友子
第5日　6月23日（水）　講師　西村　理
第6日　6月25日（金）　講師　本岡　浩子

受講料　1講座500円（要聴講票）
＊事前の申し込みが必要です
＜申し込み・問い合わせ＞
大阪音楽大学エクステンション・センター
〒561ー8555　豊中市庄内幸町1ー1ー8
☎06ー6334ー2249　FAX06ー6334ー2542

◇オペラハウス公演のチケットは電話、Fax、はがきでコンサート・センターへお申し込みください。ホームページからもお申し込みいただけます。
http://daion.ac.jp［大阪音楽大学コンサート・センター］〒561-8555　豊中市庄内幸町1-1-8　☎06-6334-2242　FAX06-6334-2164

新たな「光」求め自分探しの旅

全盲の富岡さん 短大ピアノ・コース合格

5歳のころに病気が原因で両目を失明し、「光」を失った少女がいます。失意のどん底で悩むその少女を支えたのは家族の愛情と「音楽」でした。あれから15年。音楽の世界に新たな希望を見出した彼女は念願の本学短期大学部音楽科ピアノ・コースに合格しました。兵庫県芦屋市内に住む富岡美晴さん(20)がその人。4月1日に入学式を迎える富岡さんは「音」の世界に新たな光を求め、自分探しの「舞台」に挑みます。

富岡さんの左眼に異変が起きたのは95年6月ごろのことです。当時は幼稚園の年長組。絵本や物を右眼だけで見るような不自然な状態に家族が気付きました。兵庫県内の病院で診察を受けた結果、脳に腫瘍が見つかり即手術。

「美晴は手術直前までベッドで楽しそうに絵本を読んでいました。治ることを信じて、彼女を手術室に送り出しました」と母親の晴代さん。しかし、手術の結果は両目失明。予想だにしなかった悲劇が家族を襲いました。

音楽をもっと深く

ピアノと出合い笑顔

音楽との出合いは、その年の12月にやってきました。塾の先生の勧めで富岡さんは週1回ピアノ教室に通い始めたのです。「ピアノと出合い、美晴に笑顔が戻ってきました」と晴代さん。中学校では吹奏楽部に入り、フルートを演奏していましたが、ピアノはその後も続きます。

大阪市住吉区の府立盲学校高等部(現・府立視覚支援学校)音楽科に進学した富岡さんは卒業後、さらに専攻科(2年間)に進みましたが、その間、音楽を通して様々な人と出会います。

点字楽譜読解に苦労

その一人が本学卒業生の塩見早苗先生(99年大卒・ピアノ)。「健常者は暗譜しなくても楽譜を見ながら演奏できますが、目の不自由な子は点字楽譜を覚えなければ弾くことができません。富岡さんの場合は楽譜が読めるようになるまでに相当苦労しました」。

音の高さ、長さ、強弱は点字で記されています。他の生徒が次々と新しい曲に挑戦していく中、富岡さんは一人、楽譜を覚える日々が続きます。音楽と向き合う真摯な姿勢、血の滲むような努力。そんな富岡さんを塩見先生は励まし続けます。努力は少しずつ実を結び、在学生7人と出場した「ヘレン・ケラー記念音楽コンクール」では合唱の部で優勝したことも。

先輩の音色に心打たれ

富岡さんの進路を決定づけたのは09年に本学短大を卒業し、現在全盲のピアニストとして活躍している盲学校時代の先輩、福田正人さんでした。「進路について悩んでいたころでした。コンサートで福田さんのやさしい音色に心を打たれ、音楽を深く勉強したいと思うようになりました」と富岡さん。大音の受験を薦めたのも福田さんでした。

入学試験でベートーヴェンの「ピアノソナタ 第1番」を弾いた富岡さん。「何カ所か間違えましたが、手応えはありました。大学ではいろんな曲を覚え、将来は教師とか音楽療養士を目指します」。

先輩の福田さんは「彼女は人一倍のがんばりやさん。友達をたくさんつくって音楽の幅を広げて欲しい」とエールを送っています。

富岡さんの自分探しの旅が間もなく始まります。

若い芽のコンサートVol.19

大阪音楽大学卒業生による「若い芽のコンサートVol.19」は2月20日、ミレニアムホールで開かれました。今回は歌と器楽で奏でるロマン派の作曲家たち～イタリア、フランス、ドイツ、ハンガリーより～。

高木未知子さん（ソプラノ）はイタリア生まれの作曲家3人を取り上げ、G・ドニゼッティの「ああ美しいイレーネよ、思い出しておくれ」などを熱唱。小泉文さん（ソプラノ）と吉川知佐さん（メゾ・ソプラノ）はG・ロッシーニの「音楽の夕べ」より『ヴェネツィアの競艇　魚釣り　踊り』や歌劇「セヴィリアの理髪師」より『私の心に愛が芽生えて』など。

ヴァイオリンの清水由佳子さんはベルギー出身の作曲家C・フランクの「ヴァイオリン ソナタ イ長調」を演奏。この曲はフランス系のヴァイオリンソナタの最高傑作といわれています。

原真奈美さんは少年期にハンガリーに住んでいたF・リストの「ハンガリー狂詩曲 第3番 変ロ長調」などを披露しました。

第66回 ミュージアム・コンサート

中世・ルネサンス音楽

お話　岡本一郎

中世、ルネサンス音楽がかもし出す「蒼き理想郷」の世界に酔いしれていました。

72年に結成されたこのアンサンブルは日本における中世（14～15世紀）、ルネサンス音楽（15～16世紀）のパイオニア。これまでに大阪文化祭賞金賞、ブルー・メール賞など、数々の賞を受賞しています。

この日は岡本さんをはじめガンバ奏者、坂本利文さん（本学講師）、ウード奏者、高本一郎さん（音楽院講師）ら6人が演奏。

前半はG・マショー（フランス）「良き人に逢っての帰り」、N・v・ロイエンタール（ドイツ）「冬が去りて」など中世の調べ、後半はA・ベルトラン（フランス）「おお、なんて美しい私の恋人」、C・ジャヌカン（同）「愛と死と生」「この村一番の美人」などルネサンス時代の音楽を紹介しました。

アラビアの楽器でヨーロッパに渡りリュートの元になったウード、中世からルネサンス期に使われヴァイオリンの祖先ともいわれているレベックなど、日ごろ耳にすることが少ない楽器が次々登場。ソプラノの松井智恵さんが古楽器の音色に乗せて、伸びやかに人間の心を歌いました。

古楽器奏でる人間の心

2月20日 音楽博物館

66回目のミュージアム・コンサートは、リュート奏者、岡本一郎さん率いる「ダンスリー・ルネサンス合奏団」。古楽器のゆったりとした音色が会場に流れ、観客は西洋の

春のセンバツ入場行進曲 今年も酒井格さんが編曲

第82回選抜高校野球大会（毎日新聞社、日本高校野球連盟主催）の入場行進曲は女性歌手のソロユニットSuperflyのバラード曲「My Best Of My Life」。編曲を担当したのは昨年のGreeeeN「キセキ」に続いて作曲家の酒井格さん（96年院修・作曲）です。

春のセンバツは3月21日から兵庫県西宮市の阪神甲子園球場で熱戦が繰り広げられています。入場行進曲に「My Best Of My Life」が選ばれたのは「ベストを尽くして生きていく」という意味が歌詞に込められ、大会にふさわしいというのが理由。

酒井格さん

2月2日に高槻市の高槻現代劇場で大阪市音楽団によって演奏、録音されました。CDにして出場各校の選手たちに記念として贈られました。

録音にも立ち会った酒井さんは今年の編曲について、「苦労していない訳ではありませんが、苦痛はありませんでした。今年も大きな舞台での仕事に関係させていただき感謝しています」と話していました。

オペラ物知り講座 第5期
「この人でこのオペラ」

中村 敬一

2月22日には次代のホープ高嶋優羽さん、最終回の3月9日には関西オペラ界の華、石橋栄実さんが登場し、シリーズを締めくくりました。要旨を紹介します。

ミレニアムホール

高嶋優羽さんの場合

ソプラノの高嶋優羽さん（04年・大専修）といえばチャーミングな舞台姿と正統的な音楽で今、伸び盛りの歌い手さん。お相手はオペラをはじめ宗教曲やミュージカルなど様々なタイプの曲を歌うテノールの西垣俊朗さん。佐藤明子さんのピアノでこれまであまり上演されなかった演目に挑戦します。

高嶋さんの声域は女声の中でも最も高いコロラトゥーラ。W・A・モーツァルト「後宮からの逃走」のブレントゥヒエン役が当たり役だそうですが、そんな高嶋さんにぴったりな曲がJ・オッフェンバックの「ホフマン物語」。

オッフェンバックは「天国と地獄」に代表されるようなオペレッタを数多く書きましたが、唯一書いたオペラが「ホフマン物語」。主人公のホフマンが性格の違う3人の女性に恋をします。この中の一人が人間の感情を持たない機械仕掛けの女性で、この女性が歌うアリアが「生垣には小鳥たち」。幅の広いドラマチックな声がもてはやされたロマン派の時代にあって、オッフェンバックは鈴が鳴るような器楽的な声とテクニックを要求。高嶋さんはすばらしい声と歌唱力でこの難曲を見事に歌い上げました。

この日、高嶋さんはモーツァルトの小さな作品「劇場支配人」、19世紀に活躍したA・ロルツィングの「密猟者」、R・シュトラウスが模索した新しいタイプのオペラ「ナクソス島のアリアドネ」のアリアを熱唱。ロルツィングが市民のために書いた「皇帝と船大工」、ミュージカルを思わせるF・レハールのオペレッタ「パガニーニ」は西垣さんとの二重唱。高嶋さんのコロラトゥーラとテノールの快い響きが満員の客席を魅了しました。

「玉が転がるような高嶋さんの声にはヒステリックな音が少しもありません。ポピュラーな曲も魅力的に歌え、彼女こそ次代を担う歌い手さんの一人です」

石橋栄実さんの場合

「この人でこのオペラ」の最終回はソプラノの石橋栄実さん。岡本佐紀子さんのピアノでフランスの作曲家、フランシス・プーランクのモノオペラ「人間の声」に初めての挑戦です。

「いとしいあなた、私のところへ戻ってきて」。電話の向こうの男性に甘い声でやさしく囁く彼女。男性には別の女性がいて復縁を拒み続けます。途中で電話が切れたり混戦したり。懇願、苛立ち、大絶叫。最後は絶望のあまり電話のコードを首に巻いて死を選びます。

登場人物は愛する男性に捨てられた女性だけ。一人オペラですから男性は舞台に登場しません。上演時間は45分。主人公は、見えない相手に向かって休みなしに語り、歌い続けます。その代わりにオーケストラが多彩に応えます。それは電話の向こうの男性の声でもあるのです。あるときは優しく、あるときは突き放すように。

「人間の声」は1958年にプーランクによって作曲され、翌年初演されましたが、その元になった戯曲は、遥かさかのぼって1932年に完成しました。作者は「哀れな水夫」などの戯曲を書き、映画「美女と野獣」の監督も務めた才能多彩なジャン・コクトー。彼は一人の登場人物、恋、そして近代劇の月並みな小道具である電話を使って、この戯曲を仕上げました。

ヨーロッパの電話線は地下の下水道に埋設されています。男性の声は地を這い、排水路の異様な響きを伴って彼女の耳元に届くような錯覚を覚えます。

様々な感情を作り上げ、迫真の演技をした石橋さん。「リズムが変拍子だったり調性がクルクル変わったりして音取りが大変でした」。

人間の裏側の心理を理屈ではなく、言葉と音のニュアンスから感じ取ってもらう、これこそが同時代のドイツ圏の作曲家たちの表現主義とは一線を画すフランス人らしい作品のすばらしいところです。

ペラ
」
団
演奏会

ュエーションが
が付き、周りの

第13回コンサート・オペラが3月7日、ザ・カレッジ・オペラハウスで上演されました。今回の演目はG.プッチーニの代表作「蝶々夫人」（演奏会形式・原語上演）。

キャストはタイトルロールを並河寿美さん、スズキ田中友輝子さん、ピンカートン小餅谷哲男講師、アメリカ領事・シャープレスを田中勉教授が演じるなど、実力派が顔をそろえました。

迫真の演技と歌唱力

満席の会場、感極まって

演奏会形式とはいえ、メーンキャストは衣裳をつけ、舞台には簡単なセットも。上演時間は2時間余り。並河さんはその間、ほとんど歌い詰め。迫真の演技と歌唱力で観客を舞台に引き込みます。

客席はほぼ満席。ピンカートンの帰りを信じて蝶々さんが「ある晴れた日に」を歌うシーン、すべてを悟った蝶々さんが自害する終幕の場面では感極まって目頭を押さえる人の姿も。

今回の公演はオペラハウス管弦楽団の首席指揮者、チャン・ユンスンさんのお別れ公演に当たり、豪華キャストが花道を飾りました。

第21回大阪音楽大学学生オペラ「コジ・ファン・トゥッテ」

第21回大阪音楽大学学生オペラは2月21日と23日の2日間催されました。演目はW.A.モーツァルトの「コジ・ファン・トゥッテ」（全2幕・原語上演、字幕付）

大学院生とオーディションで選ばれた学生計16人によるダブルキャストで、演出は中村敬一講師。大阪音楽大学合唱団と同管弦楽団の指揮は小田野宏之特任教授。「女はみんなこうしたもの」という意味を持つこのオペラは誠実と不実の葛藤という心理を鋭く突いたもので、重唱のすばらしさが聴きどころ。今回、この作品を選んだのもキャストに人を得たからだそうです。

若々しくいい仕上がり

制作統括の林誠教授　4月に練習を始めた時はどうなるか、と思っていたのですが、学生たちはよくがんばったと思います。エスプリが効いていて、若々しく、いいオペラに仕上がり、喜んでいます。

小田野特任教授　指導された先生の言ったことをちゃんと本番に生かし、本当にすばらしい公演になりました。オーケストラも歌手の皆さんも、一人ひとりを称えたいと思います。

第15回短大吹奏楽演奏会

大阪音楽大学短期大学部の第15回吹奏楽演奏会が2月28日、ザ・カレッジ・オペラハウスで開かれました。指揮は小野川昭博講師、演奏は短大1、2年生を中心に編成した短期大学部吹奏楽団。

プログラムは2010年度全日本吹奏楽コンクールの課題曲から田嶋勉「汐風のマーチ」などで始まり、次いで真島俊夫の「三つのジャポニスム」。「鶴が舞う」「雪の川」「祭り」の3楽章からなる作品。動から静、最後は青森ねぶた祭りの喧騒がボリュームいっぱいに会場を包みました。

プログラムの最後はL.バーンスタインのブロードウェイ・ミュージカル「ウェスト・サイド・ストーリー」から「シンフォニック・ダンス」で締めくくりました。

小野川講師の話　今回は昨年12月の演奏会で吹いた曲を2曲取り入れました。本番を2度経験したことで、安定感が出てきました。本番こそ勉強の場です。

第7回ザ・ストリング・コンサート

3月10日　ザ・カレッジ・オペラハウス

氷原をそりが疾走するようなスピード感あふれる演奏で、颯爽と始まった第7回ザ・ストリング・コンサート。上塚憲一准教授の指揮、大学、短大弦楽器専攻生の演奏で、第一曲はE.グリーグの組曲「ホルベアの時代から」です。続いてA.ヴィヴァルディの「調和の霊感」と、G.Ph.テレマンの「食卓の音楽」。艶やかな音色で自由に歌い、生き生きと対話する複数のソリストを、バロックの典雅なアンサンブルが支えます。後半はG.マーラーが大規模な弦楽合奏に編曲したF.シューベルトの弦楽四重奏曲「死と乙女」。低音弦を重厚に響かせて演奏しました。

上塚准教授　今日のプログラムは授業で勉強したソロ、アンサンブル、合奏の集大成。なかでもテレマンは表現力豊かな演奏でした。

第13回コンサート・オペ

「蝶々夫人

指　揮　チャン・ユンスン
演　出　籔川 直子
合　唱　ザ・カレッジ・オペラハウス合唱団
管 弦 楽　ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽
制作統括　本田 耕一

オペラハウス開館20周年記念

チャンさんの話　蝶々さんを演じた並河さんは本当にすばらしかったと思います。また、それを支えたキャストの皆さんも大変よかったので、楽しく演奏できました。（首席指揮者として最後の公演となったことに）オペラハウス管弦楽団は音程やアンサンブルの面でも高いレベルにあり、技術的な面でも良く出来ているし、オペラ作品に対しても深く追究するオーケストラではないかと思います。

並河さんの話　演奏会形式なので、お客さんにシチ見えるかどうか心配していましたが、立ちが付き、衣裳キャストにも助けられ、気持ちよく歌うことが出来ました。

第41回吹奏楽演奏会

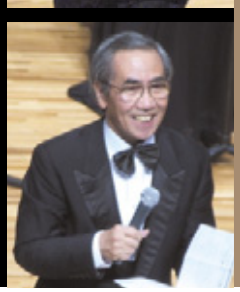
大阪音楽大学の第41回吹奏楽演奏会が3月6日、ザ・シンフォニーホールで開かれました。指揮は北野徹教授と吹奏楽のカリスマ、丸谷明夫特任教授。

オープニングは北野教授の指揮でD.マスランカの「交響曲　第5番」。次いで初登場の丸谷特任教授が曲の解説などを盛り込みながら、ワールド・マーチ・コレクションからJ.P.スーザ「エル・キャピタン」、古関裕而「オリンピック・マーチ」などを演奏しました。

M.ラヴェルの「ダフニスとクロエ　第2組曲」では大阪音楽大学合唱団が初めて登場、演奏を盛り上げました。

北野教授の話　厳しい練習を通して学生たちの人間力が見違えるほどアップしました。合唱もがんばってくれました。

丸谷特任教授の話　大音の学生は主体的に吹くことにまだ慣れていないようです。主張と協調、これからの課題です。



留学間もなく主役抜擢

09年に本学大学院を修了しドイツのハンブルク音楽院に自費留学したテノールの橋本恵史さんが留学間もないオペラ公演でいきなり「魔笛」のタミーノ役に抜擢されました。公演はハンブルク市内の劇場で4日間行われ、大成功だったそうです。

テノールの橋本さん

ハンブルク音楽院には演奏家課程、教育音楽家課程などのコースがあり、橋本さんは09年10月に3年間の予定で演奏家課程に入学しました。

この大学では毎年2月にオペラの定期公演があり、今年の演目はW・A・モーツァルトの「魔笛」。キャストも決まり、稽古が始まったある日、タミーノ役の学生が突然、役を降ろされるハプニングが。

「演出家から、お前はタミーノを歌ったことがあるか、と聞かれましてね。大学院の学生オペラでの経験を伝えると、早速オーディションが行われ、タミーノ役が回ってきました。幸運でした」

本公演は1月30日から2月27日にかけて4日間行われましたが、この大学では本公演の前に市内に30ほどある小学校を巡回公演するのが慣わし。客席は巡回、本公演とも満席で、公演の模様が新聞にも取り上げられたそうです。

ドイツの人たちを前に、ドイツ語でオペラを歌った橋本さん。「今回の公演では怖さと楽しさを学んだように思います」

「魔笛」の台本を手にして橋本さんが驚いたことがあります。モーツァルトが書いた「魔笛」の原作はタミーノという王子が変な世界に紛れ込み、様々な試練を受けながら本当の王子になっていく、という筋書き。

ところが、今回の「魔笛」は学校の中の教室が舞台。登場人物も「夜の女王」は担任の先生、「パパゲーノ」はクラスのお調子者で「パパゲーナ」はその恋人といった具合。勉強が苦手で、いじめられっ子のタミーノがテスト中に居眠りをし、夢の中で王子になる、というストーリーで、台詞は全く別物。

ドイツでは90年代ごろから衣装代の節約、観客の受け、話題性をねらって、筋書きを現代風にアレンジすることが流行りました。「ストーリーを飲み込むのに時間がかかり、かなり戸惑いました」と橋本さん。

恵まれた大音 施設もっと活用を

留学して5カ月。「ドイツに来るまでは、もっと辛いことを想像していましたが、今は楽しさとか充実感の方が大きいですね」。

橋本さんがすごく気に入っているのが歌のレッスン。日本だとレッスンは声楽の先生だけ、というのが基本ですが、ドイツでは声楽とピアノの先生が指導に当たってくれるそうです。

「声楽の先生には声をつくってもらい、ピアノの先生には音楽的なものを見てもらいます。バランス的にもいいし、さすが本場という感じです」

橋本さんのクラスにはドイツ、ロシア、メキシコ、中国、韓国など様々な国の学生がいて、授業はすべてドイツ語で行われます。

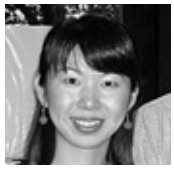
「最初のころはレッスンを受けていてもなんとなく、分かったような、そんな状態が続きました。質問ができるようになったのは2カ月ほどたってから。先生も私が質問してくるのを待っていてくれたんです。それまで悶々としていたものが、そのとき一気に吹き飛びました」

橋本さんにはドイツに行って初めて気付いたことがあるそうです。

「オペラの本場ドイツでさえ、学生がオペラハウスで歌える機会はほとんどありません。その点、大音の学生はすごく恵まれています。自前のオペラハウスがあって、立派な管弦楽団まで備わっているんだもの。ミレニアムホールもしかり。みんなもっと活用して欲しいですね」

◆

橋本さんは今年9月末までハンブルク音楽院に籍を置き、10月からはハンブルク国立音楽大学の大学院リート・オラトリオコースに進むことに決まりました。橋本さんから届いたメールには「まだまだ課題だらけですが、もっと高い環境に身を置き、胸を張って帰国できるよう、しっかり精進していきたいと思います」とありました。



在外研修を終えて　井前典子

ピアニストの井前典子さん（06年院修・ピアノ）が09年末に2年間のローム ミュージック ファンデーション在外研修（ドイツ）を終え、現在はフランス・パリでフランス音楽を研鑽中です。このほど一時帰国し、「在外研修報告」を広報誌編集室に寄せてくれました。外国での一人暮らし、言葉の壁、訪ねてきた母親の発病、転機となった看病中の体験、各コンサートへの出演など、これから留学を目指す人たちには示唆に富んだリポートですので紹介します。

ドイツ音楽修得　大きな糧

07年秋、ドイツ・ミュンヘンで留学生活が始まった。学生時代から留学への強い憧れと願望があったので、外国に溶け込むことは、さして不安でなかった。住居が落ち着いたらすぐ音楽に専念できると思った。しかし、一人暮らしをしたことがない私は、間もなくホームシックにかかってしまった。

音楽始める前に諸々の雑用

留学は本場で音楽を勉強したいという夢物語ではなく、ドイツ人と一緒にドイツの生活習慣に則り、ドイツ語で「生活」するということ。音楽を始めるまでには、ビザ申請、荷物受け取り、銀行、語学学校、電話・ガスの申込み等々、奨学金まで頂いて一体私は何をしに来たのだろうと不安になった。

研修を終えて思うのは、音楽は文化の中のごくごく一部であり、それを深く知るにはドイツの人々を知り、ドイツの生活習慣を体験し、ドイツ語を学び、彼らが無意識で身に付けているキリスト教信仰の深さに触れるなど、文化の大前提を知らないといけない。

シルデ先生の指導を受ける井前典子さん

母親の発病で考えた生と死

09年の夏、ミュンヘンを訪れた母が現地で突然、進行がんに見舞われ、大学病院での大手術、次いで抗がん治療のためにドイツの山奥にあるがん専門病院で1カ月半を過ごすという予期しない事態になった。私も通訳兼付き添いとして一緒に暮らすことになったのだが、そこでの生活は大都市から離れた静かな場所で生と死について考える、という人間としてまた、音楽家として貴重な体験であった。

散歩の時に感じるドイツの気候、森の深さ、空気の粒子の違い、毎日の食事。ドイツの森に浸った体験はミュンヘンですら出来なかったもので、ある日突然、苦手だったシューベルトが心の底から響いてきたのも、そういう経緯があったからだ。がんセンターを出て日本に帰る時、妹とコンサートをした時もシューベルトを、心を込めて弾いた。この不思議な体験は私にとって音楽上の転機となった。

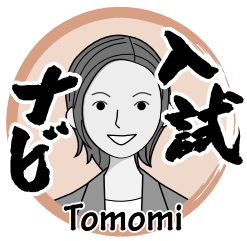
苦手作曲家の解釈にも共感

レッスンを受けたのはドイツ音楽を知り尽くしたクラウス・シルデ先生で、ブラームスやシューベルト、モーツァルト、ベートーヴェンの世界を教えていただいた。私が苦手だったこれらの作曲家の解釈が、自然に共感できるようになったのも、ドイツでの濃い生活体験があったからだ。ドイツ音楽を自分の原体験として習得できたことは、得難く大きな糧となった。

滞在中、リサイタル、ジョイント・コンサートなどもあり、一回一回が勉強の場であった。美術館や博物館はもちろん、コンサートやオペラにも日参した。ミュンヘンの場合、バイエルン国立歌劇場、バイエルン放送交響楽団というトップレベルの団体があり、そのリハーサル風景を覗けたことは一流の音楽が出来上がるまでのプロセスが見て取れ、興味深かった。

パリを拠点にフランス音楽

研修2年目にはパリにも拠点を持ったが、ドイツでの原体験が強かったお陰で、パリに行くと両者の違いをはっきりと感じることが出来た。ドイツとフランスという性格の異なる国で学べたことは、教育者になって今後、音楽を伝えていく時、演奏家として自分を表現する時、人間として人生を振り返る時、大きな経験になると確信している。また、この研修が契機となり、9月にプラハフィルハーモニーオーケストラとコンチェルトをCD録音することになった。



こんにちは、受験アドバイザーのともみです。春ですね。気分も新たに、私も高校生のみなさんに負けないように張り切っていきたいと思います。どのような出会いが待ち受けているでしょうか。ひとりでも多くの高校生とお話をして、みなさんの夢への第一歩を応援します。

10年度オープンキャンパス

今年度は計2回開催します。

◇**真夏のオープンキャンパス**
7月29日（木）各専攻・コースがそれぞれの持ち味を生かした企画を披露します。ぜひこの機会にキャンパスを訪れ、本学を肌で感じてください。個別相談もおこないます。ひとつでも不安が解消すれば自信につながるでしょう。

◇**秋のオープンキャンパス**
10月11日（月）大学・短大の定期授業を実施する祝日に開催します。普段の授業風景を見学し、音大生気分を味わってみてください。

6月13日吹奏楽ワークショップ

「吹奏楽ワークショップ　～美しい響きを～」と題して、6月13日（日）に中・高等学校の吹奏楽部員とその指導者を対象にワークショップを開催します。講師陣による演奏もお聴きください。申込方法等、詳しくは4月上旬発行予定のパンフレットまたはホームページをご覧ください。

開催日時　6月13日（日）
▽中学の部9時30分～12時30分
▽高校の部14時～17時
申込期間　5月1日（土）～5月31日（月）
対　　象　中・高等学校の吹奏楽部員およびその指導者
受 講 料　無料
講　　師　本学管打楽器専攻教員および卒業生
会　　場　本学

ウィークエンド・キャンパスツアー

土曜日に施設を中心に見学していただく「ウィークエンド・キャンパスツアー」を実施しています。4月17日を皮切りに、今年度は全8回を予定。学生が案内しますので、この機会にいろいろお話してみてください。ツアーの内容や見学する施設の概要をホームページに紹介しています。お申し込みもホームページから出来ます。ご家族、友人とお誘い合わせの上、ぜひお越しください。

はびきの市民大学・聴講記 ⑨

西洋音楽史（講師・白石知雄）

「音楽史」の重圧、ブラームスの苦悩

19世紀は作曲家にとって自己表現の時代。シューマンやショパンのような若い音楽家たちは夢（ロマン主義）を語り、進歩（産業革命）を手にしましたが、一方「歴史」や「古典」に対する関心が高まったのもこの時代です。

伝統的なやり方で貴族に仕えていた人たちは新しいロマン主義について行けず反発します。いわゆる「保守派」と呼ばれる人たちで、シューベルトと同世代に生まれたドイツのヴァイオリン奏者・ルイ・シュポアもその一人。

彼の交響曲第6番「4つの異なる時代の様式と趣味による歴史交響曲」（1840年）は楽章が進むにつれて現代に近づいてくるという変わった構成。第4楽章「1840年最新の時代」では「モーツァルトに比べると騒々しいだけ。上辺は明るいけれど表面的」と酷評。「昔の方が良かった。皆さんいかが思われますか」とメッセージを投げかけています。

「2代目意識」抱きながら

19世紀後半になると音楽大学がヨーロッパ各地に誕生し、大作曲家作品全集の出版が始まります。

全集を最初に手掛けたのはドイツのブライトコップ・ウント・ヘルテル社。バッハ没後100年の年にバッハ全集を出し、ビジネスとして成功しました。現在、クラシック音楽と呼ばれているのは、おおむね19世紀に全集を作ってもらえた作曲家のこと。全集ブームで「クラシック音楽」が確立したと言っていいかもしれません。

そんな時代のなかで、ブラームスは、「遅生まれの意識」「2代目意識」を抱かざるを得ない世代でした。すべてのジャンルに偉大な先人の影を感じ取った彼は、先人のスタイルを完全に吸収するところからスタートします。例えば「弦楽四重奏曲第3番」（1875年）。出だしの部分はまるでハイドンの時代に逆戻りしたかのようです。バッハ風のドイツ語コラールやルネサンス風のラテン語モテットなど、ブラームスがオマージュを捧げつつ作曲する対象は多方面に渡ります。過去の大作曲家と正面から向き合ってこそ真のオリジナリティが鍛えられる。ブラームスはそう考えていたに違いありません。

'10年度大学・短大入試関連スケジュール

《2010年》

6/1(火)	2011年度大学・短大 入学試験要項発行
	2011年度短大進学実技適性テスト実施要項発行
	受験講座(夏期・冬期)募集要項発行
6/30(水)～7/6(火)	受験講座(夏期)申込受付
	第60回到達度テスト受験申込受付
7/29(木)	**真夏のオープンキャンパス**
	第61～63回到達度テスト実施要項発行
7/30(金)～8/1(日)	受験講座(夏期)
8/2(月)	第60回音楽基礎科目到達度テスト
8/9(月)～12(木)	同窓会《幸楽会》特別推薦実技認定審査申込受付
8/28(土)～29(日)	同窓会《幸楽会》特別推薦実技認定審査
9/3(金)～7(火)	2011年度短大進学実技適性テスト申込受付
9/19(日)	2011年度短大進学実技適性テスト
10/11(月)	**秋のオープンキャンパス**
11/1(月)～6(土)	2011年度大学・短大 公募・特別推薦入試願書受付
11/20(土)～23(火)	2011年度大学・短大 公募・特別推薦入学試験
11/30(火)～12/6(月)	受験講座(冬期)申込受付
	第61回到達度テスト受験申込受付
12/24(金)～26(日)	受験講座(冬期)
12/27(月)	第61回音楽基礎科目到達度テスト

《2011年》

1/18(火)～24(月)	2011年度大学・短大 一般入試A日程願書受付
2/9(水)～12(土)	2011年度大学・短大 一般入学試験A日程
2/24(木)～3/2(水)	第62回到達度テスト受験申込受付
3/14(月)～17(木)	2011年度大学・短大 一般入試B日程願書受付
3/22(火)～23(水)	2011年度大学・短大 一般入学試験B日程
3/23(水)	第62回音楽基礎科目到達度テスト

7/29・10/11 オープンキャンパス

入試の質問や相談は本学ブースでどうぞ

各地で開催される進学相談会に本学ブースを設け、大学スタッフが来場されたみなさん(高校生や保護者、高校教員など)の質問、相談にお答えします。主催者側の都合により、日時などが変更になることもあります。詳細は本学ホームページでご確認ください。

2010年度進学相談会予定

北陸地区

6月16日(水)	福井	フェニックス・プラザ
6月17日(木)	金沢	金沢駅もてなしドーム

近畿地区

4月14日(水)	泉北	国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)
4月20日(火)	姫路	ホテル日航姫路
4月28日(水)	和歌山	和歌山JAビル
5月8日(土)	大阪	大阪スカイビル　タワーウエスト
5月11日(火)	高槻	高槻現代劇場文化ホール
5月12日(水)	京都	アバンティビル
5月17日(月)	奈良	なら100年会館
5月28日(金)	須磨	須磨パティオ
6月2日(水)	大阪	天王寺ミオ
6月4日(金)	京都	京都産業会館
6月15日(火)	神戸	生田神社会館
7月14日(水)	大阪	インテックス大阪
7月19日(月・祝)	大阪	大阪府教育センター

中国地区

5月24日(月)	岡山	岡山コンベンションセンター
5月25日(火)	福山	福山ニューキャッスルホテル
5月27日(木)	広島	基町クレド

四国地区

5月31日(月)	徳島	ホテルクレメント徳島
6月1日(火)	高松	全日空ホテルクレメント高松
6月2日(水)	高知	高知新阪急ホテル
6月3日(木)	新居浜	リーガロイヤルホテル新居浜
6月4日(金)	松山	松山市総合コミュニティセンター体育館

10年度入学試験結果

このほど実施した10年度の各入学試験の結果をお知らせします。大学・短大一般入試B日程と大学院後期日程の結果は次号に掲載します。

大阪音楽大学短期大学部 音楽科	一般入試A日程		推薦入試(公募＋特別)	
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数
作曲コース	1	1	2	2
声楽コース	4	4	21	21
ピアノ・コース	12	11	63	62
管楽器コース	10	9	54	53
弦楽器コース	1	0	4	4
打楽器コース	1	1	7	7
邦楽コース	0	－	1	1
ジャズ・コース	2	2	5	5
ポピュラー・コース	6	5	39	33
ミュージカル・コース	0	－	4	4
電子オルガン・コース	0	－	14	13
合　計	37	33	214	205

大阪音楽大学 音楽学部	一般入試A日程		推薦入試(公募＋特別)	
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数
作曲学科	**6**	**1**	**3**	**2**
作曲専攻	4	1	3	2
音楽学専攻	2	0	0	－
声楽学科	**16**	**15**	**22**	**20**
器楽学科	**71**	**60**	**120**	**110**
ピアノ専攻	36	32	57	54
オルガン専攻	0	－	0	－
管楽器専攻	29	24	50	44
弦楽器専攻	2	1	6	6
打楽器専攻	4	3	5	4
邦楽専攻	0	－	2	2
合　計	93	76	145	132

※ピアノ演奏家特別コース 一般入学試験A日程志願者14人、合格者9人。推薦入学試験でピアノ専攻に合格した者のうち希望者に対して実施する「コース変更審査」の申込者6人、許可者1人。

大学院音楽研究科		前期日程	
専攻	研究室	志願者数	合格者数
作曲	作曲	2	2
	音楽学	0	－
声楽	オペラ	10	1
	歌曲	4	1
器楽	ピアノ	4	3
	管弦打	5	1
合　計		25	8

大阪音楽大学 音楽専攻科	志願者数	合格者数
作曲専攻	**0**	－
声楽専攻	**21**	**14**
声楽	21	14
演出	0	－
器楽専攻	**27**	**23**
ピアノ	15	11
オルガン	0	－
管楽器	11	11
弦楽器	1	1
打楽器	0	－
邦楽	0	－
合　計	48	37

大阪音楽大学 短期大学部 専攻科	志願者数	合格者数
作曲専攻	**0**	－
声楽専攻	**11**	**10**
声楽	7	6
ミュージカル	3	3
ポピュラー・ヴォーカル	1	1
器楽専攻	**25**	**24**
ピアノ	14	13
電子オルガン	0	－
管・弦・打楽器	6	6
ジャズ	1	1
ポピュラー・インストゥルメント	4	4
邦楽	0	－
合　計	36	34

大阪音楽大学 第3年次編入学	一般入試		推薦入試	
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数
作曲学科	**2**	**2**	**0**	－
作曲専攻	2	2	0	－
音楽学専攻	0	－	0	－
声楽学科	**8**	**5**	**2**	**2**
器楽学科	**27**	**21**	**9**	**9**
ピアノ専攻	17	12	1	1
オルガン専攻	0	－	0	－
管楽器専攻	8	7	7	7
弦楽器専攻	1	1	0	－
打楽器専攻	1	1	1	1
邦楽専攻	0	－	0	－
合　計	37	28	11	11

畠山歩美さんの 香港異動余話

異動の手続きのこともあって、2月にほんの少し帰国していました。日本の土を踏むのは半年ぶり。ワクワクしながら帰ってきましたが、様々な考えを巡らす帰国になりました。学生オペラを観たり、大学時代の懐かしい方たちともお会いできたので、結局は楽しかったんですけどね。

日本ってマナーはそれなりに良い国かもしれませんが、モラルは低くなりつつあるんでは、と少し感じることもありました。ショックだったのは、電車の中で大阪音大の学生が広々と席を占領したり、携帯でぺちゃくちゃ喋ったり…。これにはがっかりというか、失望しました。

半年ぶりに帰国して

私が海外に出た日本人として一番強みに思えることは、音楽を通してベトナム人をはじめ様々な国の人とコミュニケーションが取れることなんですよね。その国の文化を理解できるのは、音楽があるからだと思います。だから、音楽を専門にやっている人は、自信を持って外に出て行けるだけの力は持っている、と言い切れます。

特にそれを感じたのは、今回帰国して学生オペラを観た時です。オペラを上演するって本当に大変なことだし、そんなことができる大音の学生って本当にすごい力を持っているんだなぁと、つくづく思いました。大音生がもっと社会で活躍して欲しいって最近本当に思います。

今の日本は物資が溢れ返っていて、物の豊かさで心を満たしている気がします。日本に憧れている発展途上国の人たちと話していて恥ずかしい限りです。きれいで住みやすい日本だけでなく、生きやすい日本であって欲しいと、心から思います。

と、こんな感じで日本について少し思ったことを書いてみました。次は新天地・香港からお便りしますね。

最古の屋内劇場で演奏決定

グラン・マエストロ・ナカガワ記念第1回Concorso Music Arte（日本イタリア協会主催）が1月11日、東京・アニエッリホールで行われ、喜多美幸さん（94年大卒・ソプラノ）が大学・専攻科・大学院・一般の部で 金賞を受賞しました。

喜多美幸

このコンクールは関西オペラの草分けで、音楽を通してイタリアと日本の懸け橋になった故中川牧三氏を称えるために創設されました。

金賞を受賞した喜多さんは7月末にイタリア・世界最古の屋内劇場テアトロ・オリンピコで開催されるフェスティバルに日本代表として出場することに決まりました。

コンクール 敬称略

■第3回ベーテンピアノコンクール全国大会 大学・一般A自由曲コース グランプリ 中西裕子（05年大専修・ピアノ）=12月22日、すみだトリフォニーホール。ベーテンピアノ協会主催

中西裕子

■第3回関西ピアノ・オーディション スペシャル部門 グランプリ 姫島亜依（大3・ピアノ）=1月10日、アゼリア大正ホール。日本ピアノ研究会主催

藤原未佳子

■第40回イタリア声楽コンコルソ ミラノ部門 イタリア大使杯 藤原未佳子（07年院修・ソプラノ）=1月10日、銀座ブロッサムホール。毎日新聞社、日本イタリア協会主催

藤村江李奈

■第15回KOBE国際音楽コンクール 声楽C部門大学・一般の部 最優秀賞、神戸市長賞 藤村江李奈（08年大専修・ソプラノ）=1月10日、ハーバーホール。KOBE国際音楽コンクール実行委員会主催

Tutti「天国と地獄」申し込みは4月16日必着

大阪音楽大学の学生自主公演オペラ「Ｔｕｔｔｉ２０１０」は喜歌劇「天国と地獄」（全２幕）。５月２日17時からザ・カレッジ・オペラハウスで催されます。

入場整理券の申し込みは４月16日（金）必着。往復はがき１枚に整理券１枚とします。あて先は〒５６１－８５５５ 豊中市庄内幸町１－１－８ 大阪音楽大学コンサート・センターへ。

「天国と地獄」はギリシャ悲劇をパロディ化したオッフェンバックの代表的なオペレッタ。ヴァイオリンの独奏やダンスもあり、力量が問われる作品。Ｔｕｔｔｉでも上演は初めて。それだけに、学生たちはバレエや新体操の経験がある学生を募集し、６人のダンサーを選ぶなど意欲的に取り組んできました。制作の佐々木彩乃さん（大４・ピアノ）は「この公演が出演者、裏方のスタッフ、お客様、Ｔｕｔｔｉに関わるすべての人たちに感動していただくように努力を重ねていきたい」と話していました。問い合わせは佐々木さん（０９０－７０８１－０１８８）へ。

サテライト・マスタークラス 合唱指揮者コース オープン講座

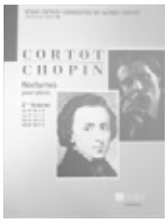
「日本語を歌う」 講師 木下牧子 里井宏次

独創的な合唱曲を次々と発表する作曲家、木下牧子氏を講師に迎え、自作について、また日本語の合唱曲をどう歌えば聴き手に伝わるかについて、里井宏次本学教授と対談しました。「合唱になじみのない人がふと聴いて癒される音楽、若い人が思わず歌いたくなる合唱曲を書きたい」と語る木下氏。「仕上げは言葉と音楽の密着度。日本語の合唱曲を歌うにはクラシックの発声と、朗読のディクションを合体させるのが理想的」と述べました。講座では木下氏の「おんがく」「44わのべにすずめ」などを、里井教授の指揮で、ザ・タローシンガーズが合唱。指揮者コースの受講生もステージで木下氏の作品を指揮し、作品の解釈について直接質問する場面も見られました。

客席に向かって指揮する受講生
2月28日　ミレニアムホール

八田惇教授翻訳 コルトー版「ノクターン第2集」

八田惇教授の翻訳・校閲によるF・ショパン作曲「ノクターン第2集」コルトー版の日本語編が、1月15日全音楽譜出版社から刊行されました。菊倍判63ページで、定価は2500円＋税。ノクターンという言葉を最初に使ったのはアイルランド生まれのジョン・フィールドで、ピアニスト兼作曲家でした。ショパンはフィールドのノクターンから感銘を受けて、この形式で21曲作曲しました。ショパンの作品からはフィールドのように一面的ではなく、より幅広く深い表現の可能性を追求し、内省的なものから劇的なものまで、多様な表現力を持った独自の詩の世界が見られます。第2集には作品37、作品48、作品55、作品62の8曲が収められ、コルトーの作品解釈や練習方法なども詳細に書かれています。



鳥取市制120年で人物誌 本学創立者の永井幸次紹介

次代へ語り継ぎたいゆかりの先人として、鳥取市が発刊した人物誌「きらめく120人」＝写真＝に、大阪音楽大学の創立者、永井幸次（1874年―1965年）が取り上げられています。市制120年を記念、市の発展に貢献した人や、市民の誇りとなるような人たちの活躍や功績を紹介したもので、定価は税込みで千円。

人物誌によると、永井は東京音楽学校卒業後、静岡師範に赴任した際、楽器製造会社の祖、山葉虎楠と知り合い、オルガンの修理技術を身に付けたこと、大阪府立清水谷高等女学校を音楽教育のモデル校に仕立て上げたこと、私立大阪音楽学校を創立し、その後に大阪音楽大学となって学長に就任し、「音楽と夢を追って奮闘努力した人」として鳥取市史執筆委員で永井幸次の研究者でもある鈴木恵一さんが紹介しています。

また、同じ次代に活躍し、名曲の数々を作った岡野貞一や言文一致唱歌を提唱した田村虎蔵の項も鈴木さんが執筆しています。

大阪音楽大学研究紀要 第四十八号

『大阪音楽大学研究紀要 第四十八号』が1月20日に刊行されました。同書には論文として長岡紫「モーツァルトの残照から未来へ」、加藤由紀「シューマンのリートにおける終わらない終止」、井口淳子「上海租界―日本の洋楽受容史の再検討に向けて」、西村理「『音楽雑誌アンブルッフ』の社会政治的な意味」、北見真智子「新潟県の大須戸能における伝承演目の推移」、竹田和子「E・マルリットの『後妻』について」、中山明子「中世後期都市コムーネの平和と秩序に関する一考察」などが掲載されています。B5判144頁。ご希望の方は本学研究事務部門へお問い合わせください。また国立情報学研究所の「NII論文情報ナビゲータCiNii」（http://ci.nii.ac.jp/ja）でも、「大阪音楽大学」で検索するとご覧いただけます。

ショパン生誕200年記念
Approach to Chopin
vol.1　楽譜

アルフレッド・コルトー版

教授　八田　惇

今年はショパン生誕２００年。「Muse」では本学教員がさまざまな角度からショパンにアプローチする新シリーズ「Approach to Chopin」を始めます。第一回は楽譜。ショパンの楽譜のなかで、20世紀前半のフランスを代表するピアニスト、コルトーの校訂版は、ピアニストの視点から独自の注釈を施した楽譜です。長年翻訳に携わられた八田教授がコルトー版の魅力をご紹介します。

ショパンの楽譜にはパデレフスキ版、ヘンレ版、最新のエキエル版などさまざまな版があります。私がコルトー版に関心を持ち、翻訳を考えたのは、大学院修了後、コルトーが創設したエコール・ノルマル・パリ音楽院に留学し、かつてコルトーのもとで全面的に支えていたジュル・ジャンティについて学んでいるときでした。帰国後81年にショパンの「エチュード　作品10」の訳をし始めました。そのとき私のピアノの先生であった池田洋子先生（現神戸女学院名誉教授　09年から本学客員教授）から音楽評論家の遠山一行先生を紹介され、出版をお願いし、快諾していただきました。最初に「エチュード　作品10」の日本語編を出版したのが83年で、それ以来27年が経過しました。現在エチュード作品10、作品25、バラード、スケルツォ、アンプロンプチュ、ソナタ作品35、作品58、プレリュード、ワルツ集、ポロネーズ集、3冊のマズルカ集、ノクターン第1集、第2集、作品集第1集と、17冊の出版を終えています。ショパン生誕２００年にあたる今年には、作品集第2集を出し、ショパンの18冊のコルトー版を完成させる計画です。

コルトー版は原典版というよりも、コルトーの個人的解釈を主としたもので、そこには指使い、フレージング、強弱、表情記号、スラー、トリル、譜割、ペダルなどコルトーの個人的考えに基づいた要素が多分に載せられています。そしてどの楽譜にもコルトーの言葉として「単に難しいパッセージをそのまま練習するだけでなく、そこを基本的な特質まで掘り下げて、そのパッセージに含まれている難しさを勉強する」と、明確に示しています。それにプラスして各作品には詳細な指導的説明文が付いていて、演奏解釈および実践的アドバイスが書かれています。これらは演奏上有効で、音楽表現の大きな支えとなり、勉強の基本的姿勢を表しています。

八田惇　大阪音楽大学大学院修了、エコール・ノルマル・パリ音楽院留学。ピアノソロ、室内楽、協奏曲など演奏活動に加え、講演、公開レッスンも行う。ショパン協会関西支部会員。

ピアニストの眼と指で作品を解釈

たとえば「アルフレッド・コルトー版　ショパン　ノクターン第2集」の作品37の2、冒頭の解説部分をみると、「音楽はまさに流動的な舟歌のリズムの上に、右手の重音のしなやかな曲線で波に戯れるきらめき。気まぐれな抑揚のまま波の律動と一つになった水夫の子守歌。夜の闇と海が安らかな神秘さで、響きの静かな広がりを包み込む」と文学的表現で曲想を喚起する一方、テクニックに関しても、右手の重音のフレーズをなめらかに弾くために、音形が要求するテクニックを習得する練習法を例示しています。

ただしこれらのコルトー版の多くは彼が比較的若い時代の仕事であり、彼の最初の妻が文豪ロマン・ロランの妻だった人で、その父親も修辞学の大家でしたから、彼も自然に難しい言葉遣いを習得したそうで、彼の文章にはいたるところにその影響がちりばめられています。つまり修飾語が多くなり、センテンスがかなり長くなってしまい、コルトー版のフランス語が今の時代には使われない、難しいものになってしまったわけです。

コルトーの活動には上に書いてきた90冊以上のコルトー版やピアノメトード（ピアノのテクニックの合理的原理）のほか、著書として「ショパン」や「フランス・ピアノ音楽」などがあります。が、彼の仕事の中心は演奏活動であり、ワーグナーなどの指揮活動をはじめ、ピアノ演奏ではソロ、コンチェルト、室内楽など幅広い領域を占めていました。それに加えてレッスンはもちろん、公開講座も数多く行っていました。いずれにしても、このようなコルトーの仕事や活動がいつの時代にも音源として、楽譜として残っていることは本当に貴重で素晴らしいことであり、それらを継承する、しないの如何にかかわらず、大切な音楽表現の資料になることは間違いないことと思います。

ミレニアムホール特別講座
『ショパンのふるさとは、やはりポーランド』
講師　日下部吉彦　ピアノ独奏　岸本雅美
2月27日　ミレニアムホール

2つの顔を持つピアノの詩人

美しいピアノ曲を作曲し、今もピアノの詩人として愛されているショパンは、1810年ポーランドに生まれました。今年はちょうど生誕200年です。ショパンは2つの顔を持っています。一つは民族的な顔、もう一つは都会的な顔。ポーランドで生まれ育ち、農民の音楽に親しんだショパンの民族的なルーツを色濃く反映しているのは、マズルカやポロネーズ。パリで華やかなサロンに出入りして芸術家と交流し、活躍したショパンの都会的な面は、ノクターンやワルツなど洗練されたピアノ曲として実を結びました。

岸本雅美講師がエチュード「別れの曲」やプレリュード「雨だれ」のほか「軍隊ポロネーズ」、マズルカ、ノクターンなどショパンの名曲を演奏し、繊細で、優雅で、そして激しいショパンの底知れぬ魅力を披露。日下部氏との対談では、「ショパンはピアニストにとって絶対はずせない作曲家。昨年ショパンより少し前に活躍したポーランドの女流作曲家マリヤ・シマノフスカの作品を演奏する機会があり、学生時代のショパンも影響を受けたかもしれないと思いました」とショパンに対する新たな見方が加わったことを話しました。

浦山弘三名誉教授死去　84歳

浦山弘三名誉教授（声楽）が10年2月15日、肺炎で死去されました。84歳でした。葬儀は近親者で営まれました。喪主は妻の眞紀子さん。

浦山名誉教授は1958年（昭和33年）に専任講師となり、助教授を経て65年（昭和40年）から94年（平成6年）まで教授を務めました。この間、大学院歌曲研究室主任、音楽研究所の初代所長、大学教授会議長、学校法人大阪音楽大学理事を歴任。関西二期会の委員長や常任理事を務めました。

演奏家としても活躍し、大阪文化祭奨励賞、2年連続の大阪文化祭賞本賞、音楽クリティック・クラブ賞などをそれぞれ受賞しました。著書、論文には研究発表「音楽教育に於ける創造性の開発」（共同研究）などがあり、06年春の生存者叙勲では瑞宝中綬章を受章されました。

大阪音大理事の粟飯原眞氏死去　77歳

学校法人大阪音楽大学理事の粟飯原眞氏が2月24日、中咽頭がんで死去され、26日に大阪市淀川区内で葬儀が営まれました。77歳でした。喪主は弟、滋氏。

粟飯原氏は産経新聞文化部編集委員だった94年から現在まで本学理事。96年1月から98年11月まで同評議員も務めました。

大阪音楽大学後援演奏会

超絶技巧のクラリネットと魅惑のヴァイオリンの調べ
5月22日（土）14時　世良美術館
前売3500円　当日4000円
ミケーレ・インチェンツォ
山田慶子　眞殿美和子

ブラスアンサンブル・ブリオン10周年記念コンサート
5月29日（土）19時　豊中市立ローズ文化ホール
一般1500円　学生1000円　当日300円増
西谷良彦　滝村洋子　永井孝治　竹本裕一
山口真理子
☎090-8468-0655　滝村

伊藤勝ピアノリサイタル
6月8日（火）19時　3000円
兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール
ショパン　ピアノソナタ　全3曲
☎0797-22-7957　伊藤

《幸楽会》後援演奏会

Percussion Performance Beat JACK#5
4月5日（月）19時
伊丹アイフォニックホール
一般2000円　高校生以下1500円
内山光知子　池田安友子　高鍋歩　安永早絵子
☎090-8168-7267　高鍋

西村紀子の“春を呼ぶコンサート&お食事会”
4月6日（火）12時　芦屋モノリス
会員10800円　一般12000円
ソプラノ　西村紀子　ピアノ　阪本康生
☎072-640-0633

フルートアンサンブルSAKURAジェンヌ
第2回定期演奏会
4月8日（木）19時　前売3500円　当日4000円
兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール
平岡洋子　吉岡美恵子　石井洋子　上野議子
内宮千尋　浦野優子　大塚祥子　河合佑美　他
☎090-1488-9320　川端

淡路島在住のフルーティストが贈る
フルートリサイタル　田中麻衣
4月11日（日）14時
市民交流センターピパホール
一般1500円　学生1000円
田中麻衣　岡村美佳　松尾京子
☎090-1958-3308　田中

H.ヴィラーロボスからブラジルとの交流を開く
5月2日（日）13時30分　3000円
兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール
弘井俊雄　松永栄子　阪本朋子　四柳由恵
田所清克　高丸真理　畑由美子
☎0798-68-0255　芸術文化センターチケットオフィス

スペインの風、フランスの息吹
5月9日（日）14時　2000円
兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール
亀谷扶美江　神垣文恵　笹井朋香
☎078-821-8551　音空間

濱田崇史サクソフォンリサイタル
5月20日（木）19時
兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール
前売一般2500円　学生1500円（当日各500増）
☎06-6377-1117　ドルチェ楽器

幸楽会
大阪音楽大学創立95周年記念
ホームカミングデー
卒業生限定オープンキャンパス
4月25日（日）10時～13時　大阪音楽大学
幸楽会総会
4月25日（日）14時　ミレニアムホール

2010年は母校創立95周年。幸楽会では95周年記念プロジェクトとして、卒業生限定の幸楽会オープンキャンパスと総会を一挙開催します。公開レッスンや在学生がご案内するキャンパスツアーも行いますので、どうぞ21世紀の母校へおこしください。詳細は3月にお送りした幸楽会だよりをご覧ください。

短大ジャズコース・コンサート

2月17日 ミレニアムホール

大阪音楽大学短期大学部のジャズコース・コンサートは2月17日、初めてミレニアムホールで開かれました。

第1部はCOMBO。ドリス・デイが映画デビューした中の曲「It's You Or No One」で幕開け。司会進行は木村知之講師で、「この1年間、学生たちは一生懸命に練習してきました。ソロの演奏中でも手が痛くなるほど拍手してください」とあいさつ。曲が終わると演奏者にインタビュー。最初の西村伊代さん（アルト・サックス）に「この就職難に就職が決まったそうですね」と問いかけると、西村さんは「島村楽器でインストラクターと楽器の販売を担当します」と答えました。すると会場から「オー」の声が起きました。

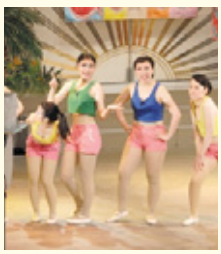
第2部はBig Band。「The Heat's On」や1960年代に現在の曲名に変えてヒットした「Fly Me To The Moon」など6曲とアンコールに応えました。

ミュージカルへの招待

短大ミュージカルコース公演

2月26日オペラハウス

今年はモノ・オペラ、歌とダンスのステージ、ミュージカルの3部仕立て。第1部はモノ・オペラ「La Voix Humaine 人間の声」より。一人の女性が電話だけを相手に、感情もあらわに語り続ける緊迫したモノローグ・ドラマを、新家華織さん（短2）が熱演。第2部はブロードウェイの2大スターをイメージした「二人のワイド・ショウ」。カメラリハーサルの設定で、ミュージカル・ナンバーを散りばめ、歌とダンスの華やかなステージを展開しました。第3部はミュージカル「心を繋ぐ6ペンス」。半分に割った6ペンスに込められた幼なじみの恋の危機を、ほのぼのとコミカルに演じました。



付属音楽幼稚園たのしみまショー

2月13日オペラハウス

大阪音楽大学付属音楽幼稚園の「たのしみまショー」が2月13日、ザ・カレッジ・オペラハウスで行われました。初めてオペラハウスで練習したときは「客席がいっぱいになるのかな」とわくわくどきどきしていた園児たち。幕が上がると、元気な声で歌ったり、お友だちと上手にお遊戯したり。

一生けんめい役になりきって、象のぐるんぱが、特大のビスケットでこどもたちと仲良しになる「ぐるんぱのようちえん」や、主人から追い出された動物たちが「ブレーメンに行っておんがくたいになろう！」と希望を見つけて旅に出る「ブレーメンのおんがくたい」など、たのしい劇あそびを見せてくれました。

楽器を奏でる人形たち

太鼓をこする天使

太鼓の中央に伸びた棒を手でこすって鳴らすサンボンバと呼ぶ摩擦太鼓です。この種の太鼓は今も広くヨーロッパで使われています。スペイン製。

西岡信雄コレクションより（音楽博物館所蔵）

次号発行予定5月27日